

# Public Relations

## ～小学校砂防学習会資料の改善を通して～

下川 恭平<sup>1</sup>

<sup>1</sup>関東地方整備局 利根川水系砂防事務所 浅間山出張所 (〒389-0206 長野県北佐久郡御代田町御代田 2440-12)

利根川水系砂防事務所では、6月の土砂災害防止月間における取り組みの一環として、出張所毎に管内の小学4・5年生を対象とした砂防学習会を毎年行っている。学習会ではパワーポイントを使って関東地方整備局の事業概要や砂防事業について説明をしていたが、これまで使用してきた資料では、内容が幅広く何を伝えたいのかが不明確で、情報量の多さから小学4・5年生が短時間で理解できるような内容となっていなかった。平成30年度の砂防学習会を行うにあたって、小学生がより理解しやすい内容となるよう資料の見直しを行ったので、これについて広報のあり方を踏まえてとりまとめた。

キーワード Public Relations, 砂防学習会, 小学生, PR, 広報, 土砂災害防止

### 1. はじめに

利根川水系砂防事務所では、6月の土砂災害防止月間における取り組みの一環として、各出張所管内の小学校に出向き、4・5年生を対象とした砂防学習会を毎年開催している。この学習会では、パワーポイントを使って主に砂防事業についての説明をしているが、その他にも関東地方整備局の事業概要や利根川の概要なども盛り込まれており、内容が幅広く何を伝えたいのかが不明確であった。このため、普段小学生が聞き慣れていない「砂防」のことを限られた時間で理解してもらうには情報量が多すぎる内容となっていた。

平成30年度の砂防学習会を開催するにあたって、より小学生が理解しやすい内容とすべく、これら資料の見直しを行い、それによる学習会の開催結果を報告するとともに、今回の資料の改善を通して学んだ広報のあり方について報告する。

### 2. これまでの説明資料

従来使用していた説明資料は、冒頭で当該流域の降水量について説明し、次ページから8ページにわたって近隣自治体で発生した土砂災害の空撮及び地上写真(図-1)を掲載、その後、国土交通省の仕事(図-2)、利根川水



図-1 近隣自治体で発生した土砂災害の地上写真



図-2 国土交通省の仕事



図-3 利根川の概要



図-4 砂防施設の種類の役割

系砂防事務所の仕事と位置関係を説明し、そこから利根川の概要(図-3)、砂防施設の種類の役割(図-4)と続いて、最後に土砂災害に対する備えに関する説明でまとめられていた。

前半で掲載している近隣自治体で発生した土砂災害の写真は、身近でも土砂災害が発生していることを伝えたものと思われるが、実際に当該小学校の先生方と事前打合せを行ってみると、2年前に発生した土砂災害であるにもかかわらず、その地区や発生時期などについて知られておらず、意図した効果が十分に得られていないようであった。

また、資料全体として写真が多用されているものの、砂防事業に関する説明では文字が多くなっており、小学生が見て理解するのは難しいと思われる。

全体の説明の流れについても、中間に国土交通省と利根川水系砂防事務所の仕事についての説明が入ることで、土砂災害とその対策についての説明の流れが分断されてしまいわかりづらくなっている。

これらを踏まえて、次章以降のような資料の改善を行った。

### 3. 資料の改善

#### (1) 学習会の目的

資料の見直しにあたって、まずはこの学習会の目的について改めて考えてみた。

従来資料では、近隣自治体の災害事例や国土交通省の仕事に関する説明、砂防施設の説明がされており、一見ただけでは目的が不明確であった。土砂災害防止の観点でこの学習会を開催していることから、国土交通省が砂防以外にどのような仕事をしているかを説明する必要性は感じられない。それよりも、土砂災害の危険性を理解してもらうことが重要であると考えた。これを目的として設定し、それに沿った資料の見直しを行うこととした。

#### (2) 説明シナリオ

次に、目的を踏まえて説明のシナリオを検討した。

説明の流れとしては、まず土砂災害の概要を簡単に説明し、次に具体的な事例を見てもらい、最後にそれに対する施設整備等について説明することとした。土砂災害の概要と具体事例を見てもらうことで土砂災害の危険性を理解してもらい、その上で施設整備や避難について説明することで、よりこれらの重要性を理解してもらえたと考えた。

#### (3) 資料の見せ方

相手が小学生であることと、土砂災害の危険性を理解してもらうことを考慮して資料の見せ方を工夫した。

土砂災害の概要の説明では、「砂防」を聞き慣れていない小学生であることを考慮して、土石流、地すべり、がけ崩れの簡単な図を使って説明することにした。当出張所管内では土石流対策を中心に行っていることもあり、以降は土石流に特化した説明とした。

次に具体的な事例として、土石流の映像資料(図-5,6)を見てもらうこととした。従来資料では被災状況の写真



図-5 土石流の映像資料





図-6 土石流の映像資料（流木）



写真-1 砂防学習会のようす

を掲載していたが、それでは土石流が発生した後の状況しかわからず、実際にどのような現象が起こってそうなのかわかるのかを見てもらう方がより土石流の危険性を理解してもらえると考えた。

施設整備に関する説明では、対策施設の種類の説明に図と写真を用いて説明した後、図を使って砂防堰堤が土石流を捉える働きを説明し、その後、砂防堰堤が実際に土石流を捉えた映像をみってもらうことにした。これにより、砂防堰堤の整備効果を視覚的に理解してもらおうと考えた。また、次ページで砂防堰堤が流木を大量に捕捉している写真を見せ、これについても整備効果を発揮することを説明することにした。

最後にまとめとして、国土交通省川の防災情報のレーダー画像を見せて、雨の情報を確認することとレーダー画像の見方について説明することにした。

このほかにも、子供たちが説明を聞いて飽きないよう、図や写真が中心のスライドでの説明と映像を見ながらの説明を交互に組み立てるなど、聞き手に合わせた説明となるよう工夫して資料を作成した。

#### 4. 学習会での反応

学習会当日の反応としては、全体的に熱心に聞いてもらえた。（写真-1）特に、映像資料を見せた際は「おお！」「うわあ！」と声をあげながら見ていた。これについては非常に興味を持って見てもらえたことで、土石流の危険性について十分理解してもらえたと考えている。

学習会では、これらの説明のほか、降雨体験車と自然災害体験車による災害体験や簡易な土砂災害模型による模型実験も併せて行っており、これらと相まって土砂災害に対する理解を深めてもらえたと考えている。

#### 5. 反省点

学習会を通して、土砂災害について理解してもらうことはできたと考えられるが、それに対してどう行動すべきかということ十分に伝えられなかった。川の防災情報のレーダー画像を見て降雨状況の確認をするところまでは説明したものの、その情報をどう理解してどのタイミングで避難すべきかなどを説明できていないため、自主的な避難等の具体的な行動につながる説明が十分ではなかったと思われる。

また、学習会の理解度を計るアンケート等の効果測定を実施していない。学習会の説明者や参加者は、当日の反応などを見ているため効果があったと感ぜられるが、客観的な指標を示すことができないため、他の学習会との理解度の比較などもできない。今後は、事務所全体として学習会をより良いものにしていくためにも、共通した指標をもうけて、効果測定をしていく必要があると感じた。

#### 6. 広報のあり方

学習会資料の改善についてまとめるにあたって、改めて「広報とはどうあるべきか」を調べてみた。

「広報」を英訳すると、この論文のタイトルでもある「Public Relations」である。民間企業などでは「PR」と略され、主に行政では「広報」として訳されてきた経緯があるようである。この「Public Relations」の本来の意味は、組織とそれを巻き込む社会が望ましい関係をつくるための考え方や行動であるとされている。相手に伝えることが目的の「宣伝」とは違う。広報を行うにあたっては、「望ましい関係をつくる」ということを意識して取り組むことが重要なのである。

これを踏まえて今回の学習会資料の改善を振り返ると、望ましい関係とは何かという点で十分ではなかったように思う。今回の望ましい関係とは、土砂災害の危険性を理解してもらうことにより、自主的な避難等の具体的な

行動につながる知識を身につけてもらうことと、公共事業について理解してもらうことと考えられる。映像を見せることで土砂災害の危険性については理解してもらえたと思うが、具体的な行動や公共事業への理解については、今後さらに改善していく余地があると思われる。反省点でも記したが、事務所全体で共通した指標をもうけて、アンケート等の効果測定を行っていくことで、それを活用して、より良い説明資料への改善をしていくことが重要であると考えられる。

## 7. 最後に

今回の学習会資料の改善と広報のあり方を通して学んだことをまとめる。まず、広報を行うにあたっては、その目的は何かをよく考えることである。この目的は、望ましい関係のことであり、それを十分に理解したうえで広報に取り組むことが非常に重要である。次に、相手により理解してもらえる手法を活用することである。今回

の学習会資料では、映像資料の活用や子供たちを飽きさせないような構成などを自分なりに考えて作成した。一般的には、文字<音<画像<映像の順に印象に残りやすいと言われており、これらを活用したあらゆる手法を学んで身につけていくことが、より良い説明資料作りにつながると思う。さらに、現状を十分に理解してもらったうえで、望ましい関係をつくるために何をしてほしいかを伝えることが重要である。今回は映像資料で土砂災害の危険性を伝えることで、現状で起こりうる現象を理解してもらったが、何をしてほしいかを十分に伝えることができなかった。今後は改善すべき点である。最後に、アンケート等による効果測定の実施である。この結果を活用して、より良い広報活動に改善していくことが重要であると感じた。

今後も広報活動に携わる機会があると思うが、今回学んだことを活かして、より良い広報活動ができるよう取り組んでいきたい。